



令和4年12月13日

富津市長 高橋 恭市 様

富津市廃棄物減量等推進審議会
会長 三木 千 明



富津市一般廃棄物処理基本計画素案に対する意見について（答申）

令和4年11月22日付け富環第1111号で諮問のあったこのことについて、富津市廃棄物減量等推進審議会を開催し、慎重に審議した結果を下記のとおり取りまとめましたので答申します。

記

廃棄物の減量化、再資源化及び適正処理を図る観点から、総合的に判断し、富津市一般廃棄物処理基本計画素案のとおり改定を行うことは妥当であると判断するが、以下の点について、配慮されたい。

1 一般廃棄物処理基本計画は、長期的な視点から廃棄物処理を行っていくための計画であり、本市におけるごみ処理及び生活排水処理などの指針である。

近年、ごみを取り巻く社会は、持続可能な開発目標（SDGs）やサーキュラーエコノミー（循環経済）などの世界的な取り組みや、それらに伴う各種法整備が進められるなど、日々、新たな展開が生じている。

これらの社会情勢を踏まえ、本計画においても、本市の限られた経営資源を考慮し、民間活力の積極的な活用を検討したなかで、より現状に即した計画となるよう必要に応じて改定を行うなど、本計画の基本理念である「豊かな自然と調和した誰もが参加できる持続可能な生活環境のまちづくり」の実現に努めること。

2 一般廃棄物処理基本計画の運用にあたっては、長期的な視点に立ち、安定した廃棄物処理と将来の循環型社会の構築に向けて、本計画の基本方針等に基づく各種施策を積極的に推進することにより、成果目標が達成出来るよう「富津市みらい構想」などの関係計画とも整合したなかで進捗管理を行うこと。

3 本市の住民一人当たりが一日に排出するごみ量（原単位）は、千葉県平均と比べても非常に高い傾向にあることから、「富津市ごみダイエット作戦100」や食品ロス削減を積極的に推進し、市民、事業者への啓発と具体的な施策の展開を図ること。

4 「市町村一般廃棄物処理システム評価支援ツール」における5つの指標のうち、本市は、「人口一人一日当たりごみ総排出量」、「人口一人当たり年間処理経費」、「最終処分減量に要する費用」の評価が類似団体や近隣団体と比較し、低い結果となっている。

このことから、これらの原因をしっかりと精査したなかで、今後の対応策を講じていくこと。

5 家庭系ごみと事業系ごみの比率について、千葉県平均と比較した場合、本市は事業系ごみの割合が多い傾向にあることから、事業系ごみの減量推進は、重要な方策であると考えている。

このことから、事業者に対し、事業系ごみの適正な分別の徹底や再資源化の推進に努めるよう指導を行うとともに、具体的な減量施策についても検討を進めること。

6 本市の未来を担う子供たちに対する環境学習などの実施は、ごみ減量や再資源化への意識を高めるうえで有効な手段と考えることから、学校等において、環境問題や身近なごみ問題をテーマとした授業が取り入れられるよう担当部局と調整を図るなど、環境教育の推進に努めること。

7 可燃ごみのなかでも比較的重量のある「生ごみ」の削減にあたっては、誰もが実践できる食品ロスの削減が有効と考える。

食材の適量購入、適切な冷蔵庫内管理、適量調理が大きなおみ減量につながることから、市民が日常の生活を振り返って食品ロスを減らせるよう周知・啓発に努めること。

- 8 本市においては公共下水道の普及率が低い状況にあることから、発生源対策として、合併処理浄化槽設置の普及、単独処理浄化槽や汲み取り便所からの転換促進、また、合併処理浄化槽の正しい維持管理方法の普及・啓発が重要と考える。

快適な生活環境と健全な水環境の保全のため、合併処理浄化槽等の補助制度の在り方を検討するなど、施策の推進を図ること。

- 9 富津市クリーンセンター（し尿処理施設）については、日々の市民生活に支障をきたすことのないよう、適切で効率的な施設の維持管理を心がけるとともに、延命化に努めること。

